

第6学年 「みんなで楽しいティーボール」

今治市立桜井小学校 徳永 亘亮

単元前半は打つ技能のスキルアップ活動を行い、後半はチームの特徴に合った作戦を考えて実行する活動を行いました。場の設定やルール、使用する道具を工夫することで、誰でもティーボールを楽しむことができる環境をつくりました。主体的・協働的な学びを通して、仲間を認め、励まし合いながら「できるようになる喜び」を感じられるように、チームで活動する時間を多く設定しました。

○ 単元計画（全8時間）

時	第1時	第2～4時	第5～7時	第8時
はじめ	○ オリエンテーション ・5年時の活動を想起 ・ルール・約束の確認	○ 準備運動 ・捻転体操 ・新聞紙バットの素振り ○ めあての確認 ○ 技能ポイントの確認 ・正しい打ち方 ・力強いスイング ・バットコントロール	○ 準備運動 ・捻転体操 ・新聞紙バットの素振り ○ めあての確認 ○ チームで作戦の確認 ・攻撃の作戦（第5時） ・守備の作戦（第6時） ・自己やチームの特徴を生かした作戦（第7時）	○ 準備運動 ・捻転体操 ・新聞紙バットの素振り ○ めあての確認 ○ 試合順、対戦相手の確認 ○ チームで作戦の確認
なか	○ 試しのゲーム ・課題の発見	○ チームで練習 ・ミート練習 ・遠くに飛ばす練習 ・狙った方向に打つ練習 ○ ゲーム ・練習したことを生かして	○ チームで練習 ・チームで作戦を意識した練習方法 ○ ゲーム ・チームの作戦を意識して	○ 「SBC（桜井ベースボールクラシック）」
おわり	○ 振り返り・学習カード	○ 振り返り・学習カード ・技能ポイントの自己評価 ・仲間との関わり	○ 振り返り・学習カード ・技能ポイントの自己評価 ・作戦がうまくいったか ・仲間との関わり ・次時の作戦の決定	○ 振り返り・学習カード ・技能ポイントの自己評価 ・作戦がうまくいったか ・仲間との関わり

○ 運動のポイント

① 自作の新聞紙バットを使った捻転運動・素振り

② 道具の工夫

自分で作ったバットを使うことにより、練習意欲がアップ

苦手な子どもでも打つ楽しさを味わうことができる！



「いち」「にっ」「さん」のリズムでバットを振るといいね。

腰をしっかりと回す。



長めのバット  
短めのバット  
面が平らなバット  
テニスラケット

③ 場の設定やルールの工夫

【基本的なルール】



- ★ 3チーム（先攻・中攻・後攻）で行う。
- ★ 1試合1イニングで行う。
- ★ 打者一巡で攻守交替を行う。
- ★ 打者はどのバットを使ってもかまわない。
- ★ 守備がボールを持ってアウトゾーンに入ったら、それ以上進塁できない。
- ★ 直接フライをキャッチした場合は0点。
- ★ イニングの開始時は、満塁から始める。（以降、打者は残塁）
- ★ ランナーが本塁に還ると1点。
- ★ 守備はファウルゾーンに入らない。

イニングの開始時、満塁からスタートすることで、打って得点する楽しさを味わうことができる！

第6学年 「心の変化を引き出す運動を考えよう！！」 -体ほぐしの運動-

内子町立五十崎小学校 永尾 隼人

心の変化を引き出す運動を自分たちで考え、実践してみることで、心と体の密接な関係に気付くことができ、運動の日常化につながることを期待できます。

○ 単元計画

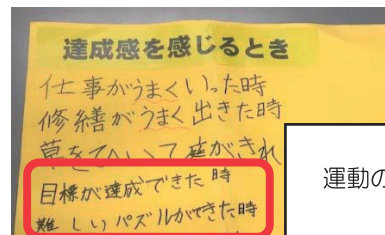
全体で体ほぐしの運動にはどのようなものがあるのかを確かめた後、グループに分かれてオリジナルの体ほぐしの運動を考えます。グループごとに課題を設定し、課題に合わせた運動を考えます。教師が例示した運動を参考にしたり、ルールを工夫したりするなど、子どもたち同士でアイデアを出し合いながら、運動をつくり上げていきます。考えた運動を全体で発表し合い、課題に迫る内容であったか、改善点はなかったかなど意見を交流します。単元終末は、考えた運動を全校に発信し、学習の成果を広げます。

時	第1時	第2～3時	第4時	第5時
はじめ	○ オリエンテーション ・学習の目標 ・学習の進め方	○ 体ほぐしの運動の紹介・実践 ○ めあての確認		
なか	・体ほぐしの運動例の紹介・実践 ①新聞棒を使った運動 ②レジボールを使った運動 ③リズム運動	○ 運動づくり ・心の変化が起こる場面の情報収集 ・心の変化につながる運動の選定	○ 発表会 ・レジボールドッジボール ・レジボールキャッチ	○ 改善点を踏まえた運動の再考 ・運動による心の変化の確認 ・全校への発信
おわり		○ 振り返り	○ 意見交流 ○ 振り返り	○ 単元の振り返り ・まとめ

○ 運動のポイント

体ほぐしの運動は、心と体の関係に目を向けて取り組むことが重要な領域です。楽しいと感じる運動を多くすれば満足感、運動量を多く確保すれば充実感が高まることが期待できます。「楽しい」「達成感を味わう」「気持ちよい」「心地よく疲れる」のような課題を持ち、その心の変化を引き出すための運動を考えます。生活経験や運動経験を基に運動を考えることを通して、心と体の関係を意識しながら、運動をつくっていきます。

日常生活での気持ちの変化



運動の思考

日常生活での気持ちの変化をヒントに、どのような運動をすればよいのか考えます。

みんなで息を合わせてキャッチできたら達成感が大きいな。



次はボールを新聞棒ではさんで、もっと難しくしてみよう。

